

發信用		執務用			
主信	1	2	3		
附屬	甲				
	乙				
	丙				
	丁				
備考	A門3番4部2-4				

東亞局

要寫二部

文書課長

文書課發送

昭和拾年拾月廿貳日發送

主 歐亞局長

任 第一課

號 昭和十年十月廿貳日

日附附屬

昭和十年十月二十日起草

正校(原稿)

(淨書)

別紙

件名	第三國際ノ對日陰謀計畫	件名	唐澤内務省警保局長
件名	ニ関スル件	件名	東郷 歐亞局長
備考	本件ニ關シ今般在新京川村總領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付御参考ノ爲右茲ニ送付ス	備考	

本信送付先

(昭和十年十月三日附在新京 館來(往)電 第三六八號 電報附屬書添附)

外務

S 13401 4345 (0867 22 56

REEL No. A-0373

(別表)

住 所	氏 名	種 類	部 数
翔町区内幸町一三	唯物論研究会	翼上空中戦	
糸川区御幣蔵前町二〇	純務勵組合同盟		
豊島区雑司谷町三二二	秋田両雀		
府下寺窪寺山谷三六五八	細田民樹		
本所区横川橋四七	木質殿太郎		
浅草区今戸町一九四	全国水平社関東聯合會		
本所区横川橋四七	第一合同消費組合		
塚原区八島町三四三八	魯所(戸)托兒所		
杉並区高円寺五五〇	古蹟知行		
神田区取福町三	全国労働新聞社		
世田谷区世田谷三三三	蒼(青)野季吉		
神田区神保町三一三	ナシツ社(大竹博吉)		

(一) S 13401 4348 C. 0869

寫

機密第一四〇一號

昭和十年十月三十一日

在間島

總領事

水

井

清

在滿洲國

特命全權大使

南

次郎

殿

國際共產黨ノ反日宣傳ニ關スル件

(瑛春分館警察署長報告要旨)

本信寫送附先

外務大臣

在間島日本總領事館

S 13401 4350

0871

A73類4項2-4

公機密第一〇六五號

昭和十年十月三十一日

在間島

總領事

水

井

外務大臣

廣田

弘

毅

殿

昭和十年十月三十一日機密第一四〇一號寫送付

在滿大使宛

一、國際共產黨ノ反日宣傳ニ關スル件

在間島日本總領事館

S 13401 4349

0870

歐亞局

第一課

昭和拾年十月五日 接受
附屬添付

10.11.5

寫 瑋警機密第三八四六號ノ二

昭和十年十月二十一日

在瑋春分館警察署長

在瑋春

分館主任 殿

國際共產党ノ反日宣傳ニ關スル件
本件ニ關シ浦潮方面ニ密報セル謀者ニ依
リ國際共產党ニ於テ發布セル反日宣傳
書「日本トハドシナ國カ」一部入手譯出セ
ル慶龙記ノ通リニ付何等御參考迄テ
報告申進ス

寫送付先

警察部長、三分署、百、涼、小三、大肚
瑋支、瑋特、瑋憲、坪井、滿軍、滿警

S 13401 4352

S 13401 4351

0872

日本トハドシナ國カ?

日本ハ工業、農業國デアリ自己独特ノ特
殊性ヲ持ツテ居ル國デアル

近時日本ハ産業カ高度ニ發展シ此ノ産業
ハ大キナ「ドラス」ニ統一サレ各銀行ヤ國營
企業ト結合シテ居ル

數億圓ノ資本ヲ有スル 四一五ノ大コンツエ
ルハ事實上日本ニ於ケル純然タル主人公デア
ル之等ノ大「コンツエ」ハ國家機關ト結合サレ日
本政府ヲ指圖シ日本ノ運命ヲ支配シテ居ル
タカ日本ニハ、三、四、五十名ノ労働者ヲ使用シテ
居ル極ク少規模ノ企業所カ非常ニ多イ
之レハ日本ノ産業カ他ニ比シ相對的ニ多ク進

クレテ居ルト言フ事ヲ明ラカニ表明スルモノデ
アル、日本ノ最モ重要産業ハ紡績業デアリ
之レハ日本國內ニ於ケル全産業ノ三分二以
上ヲ占メ、爲メニ日本ハ植民地其他諸外國
ニ多量ノ紡績産物ヲ輸出シテ居ル
然共大規模的機械製作工場ノ發展ハ未ダ
相當遲延セル部門デアル

日本ハヤット世界大戰以來ソシテ特ニ最近ノ
數年間ニ重工業——自動車「モーター」航空機
化學等々ノ工業カ急速度ノ發展路ニ在ル
之レニ反シ日本ハ高熱度ニ發展セル資本主
義ト相並ンテ資本主義以前ノ封建制度
ノ残滓カ未ダニ残ッテ居ル

S 13401 4354

S 13401 4353

0873

日本ニハ大地主的所有權カ存在シ土地所有
者ハ其ノ土地ヲ切レシテ小作ニ貸シ付ケテ居
ル事實上ノ小作人ノ農民ハ最モ苛酷ナル搾
取ヲ受ケ半ハ屢々農奴ノ奴隸的ナ情勢
下ニ置カレ地主ノ土地ヲセツセト働イテソシテ
小作料トシテ現物ヲ全收穫ノ半分或ハ其レ
以上ヲ支拂ヒ地主ハ斯クシテ産業家或ハ企
業家トシテ大樂ヲ極メ込シテ居ル
然ルカ爲メノ斯ル実状ハ年々深刻化シ貧農
民ハ増大スルノミ現在全農内約七割強ノ貧
農民カ困窮ト戦ヒツ、アル
之レト相對シテ産業方面ノ部門ヲ見ルニ例
ハ紡績等ノ労働者ノ雇入れハ今ニ各農各

地ノ田舎娘ヲ其ノ子ノ生ズノ親達カラ買ヒ取
ル様ナ方法カ盛ニ行ハレテ居ル此種間内
ノ代理人カ各々農村ヲ歩キ廻リナカラ娘等ノ
親ニ五十ヤ百ノ金ヲ支拂ヒ可弱イ娘ヲ買ヒ
取り然シテ娘等ハ女エトシテ遠慮ナク工場ニ
送ラレ契約ニ依リ激勵セシメラレルノテアル
彼ノ女等ハ屢々時間ニ制限ナク搾取サレシ
シテ企業ニ巨大ナル利益ヲ與ヘツ、アル
斯クシテ日本ノ資本家連ハ労働者ノ其權
利ト労働賃金ノ安價トヲ利用シ労働者ト農
民ヲ其慈悲ニ搾取シ莫大ナル資本ヲ築キ居
ルニモ不拘ス彼等ハ亦他ニ新ラタナ利潤ヲ
追及シ憎悪スヘキ侵略的戦争ヲ敢行シタ

S 13401 4356

S 13401 4355

0874

一八九四年ノ日清戦争ニ於テ日本ハ支那ノ諸
市租借地及台湾ノ占領ニ成功シタツアル
ロシアカ敗北ヲ受ケタ日露戦争ニ依リ日本
ハ朝鮮樺太ノ南部南滿洲鉄道ヲ獲得シタ
彼等ハ世界大戦ニ参加シタトハ言ハ大ナル國
力ヲ喪失マルモ、非ス彼等ハ却ツテ他ノ列強
國カ極東ヲ考慮スル丈ケ、余裕ヲ持タヌヲ
好機ニ利用シテ益々支那ニ深入シ盛ンニ自己ノ
政策ヲ發展セシメ然シテ此ノ戦争ノ結果日
本ハ旧独逸領ノ南洋諸島ヲ占領シテアツタ
日本ハ自己ノ勞農民ニ對スル採取ト其ノ植
民地及隣國支那ニ對スル限りナキ掠奪
ニ依リテ經濟的亦軍事的威カヲ強固ニシ

S 13401 4357

0875

斯クシテ先進帝國主義列強ノ隊列ニ迄テ
長成シタ然ルカ爲メ日本ハ從前ヨリ太平洋
掠奪者各帝國主義「イギリス」「フランス」
「アメリカ」「オランダ」諸國ニ取ツテ最メ危険ナ
ル競争者トナツタ、金融資本ノ關係上政商
市場ノ關係上原料獲得ノ關係上日本帝國
主義者共ハ其比較的安價ナ商品ト海路ニ
近イ便利トヲ利用シテ只支那ヘノ侵入マ
ルノミナラス此他「イギリス」「アメリカ」其他
帝國主義諸國ノ植民地ヘモ鉄面皮ニ手ヲ
出シテ居ル、現在日本帝國主義者共ハ「イ
ンド」「オーストリア」蘭領「フィリッピン」諸國ニ
對シ經濟的激烈ナル鬭争ヲ敢行シテ居ル

S 13401 4358



基ヨリ各帝國主義者間ニ於ケル支那及太平洋ヲ中心トスル爭鬪戰ハ益々尖銳化サレシムアル

世界經濟恐慌ハ帝國主義諸國間ノ關係ヲヨリ以上尖銳化シ殊ニ日本國內ニ於ケル農產業特ニ彼等ノ對外貿易ニ多大ノ反響ヲ與ヘタ、勤勞大衆ハ貧窮シ國內市場ニ於ケル商口ノ賣レ行キハ極ク少ク安價ナレ共諸外國亦ハ植民地―國外ヘト余儀ナクサレテ居ル斯如ク恐慌―日本帝國主義者共ヲシテ蓄積サレタ資本利用ノ為メ亦商品販賣ノ為メ植民地ノ獲得新市場開設ノ為メ益々追圧化セシメラレ之レカ爲メ帝國主義諸國ノ利

害關係ノ矛盾ハ益々尖銳化シ此ノ鬪爭ハ帝國主義諸國自身カ只武力ニ依ツテノ解決爲シ得ルト聲明スル迄テ尖銳化サレタノデアリ太平洋ヲ中心ニ日本トアメリカトノ鬪爭ハ極端ニ尖銳化シ爲メ一九二〇年レーニンハ曰ク日本トアメリカトハ戰爭ノ前夜ニアルソシテ一千万名ノ國民ヲ殺シ二千万名ノ不具者ヲ造ルテアロウカ此ノ戰爭ヲ阻止スベキ何等ノ可能性マナイレト指摘シタ

當時ヨリ日本トアメリカ間ノ矛盾ハ益々強化サレソシテ日本ニ於テモアメリカニ於テモ現在此ノ戰爭ノ不可避性ヲ公然ト認めテ居リ問題ハ只時卜情勢アルノミテアル

S 13401 4360

S 13401 4359

0876

此ノ事實ニ對シ日本ニ於テハ所謂非常名付
ケテ一九三五年一九三六年カ夫レテアルト戦争
可能ノ時期迄テテ予想シテ居ル状態テアル
一九三五年一九三六年此ノ年ハ去ル一九三二年
アメリカイギリス日本トノ間ニ締結サレタ海
軍軍縮ニ關スル「フアシスト」條約ノ有効期間
カ切レルテアル此ノ條約ニ依レハ日本艦隊
數ハ「アメリカ」及「イギリス」ノ夫レヨリニ低率
ルヘキ筈ナルニ今ヤ彼等ハ億面ヲナク軍備平
等ヲ要求シ之レカ反面盛ニ軍備擴張ニ
努力シテ居リ此ノ戦争ニ對シ日本國內ニ
在リテハ擴大ヲ宣傳カ行ハレテ居ル一九三
四年二月日本大衆的雜誌「政界往來」ニ「日米

S 13401 4361

0877

戦争ノ必然性」ト言フ題目ノ下ニ曰ク「支那ニ於
ケル日本權益確保ノ爲メハ百ノ戦争マ辞セ
ナイ」ト尚ホ日米戦争ノ不可避性ニ關シ「米
國艦隊ニ對スル日本艦隊ノ現在ノ優勢感
カラ見テ此ノ戦争ハ早ク敢行スレハスル程日
本ニ取ツテ有利テアル」ト述ヘテ居ル
尚ホ之レカ一般讀者ヲ軍事的ニ鼓舞セシカ
爲メ此ノ戦争ハ日本ノ戦勝テアリ日本ノ産
業及對外貿易ヲ發展セシムルテアラウト宣
傳シ更ニ吾カソヴエイト同盟反對ノ宣傳ニ在
リテハヨク激烈ニ行ハレテ居ルノテアル
日本ノ如ク戦争ノ宣傳ヲ公々然ト行ツテ居ル
國ハ恐ラク世界各国中一國ニナイテアラウ

S 13401 4362

日本ニ於テハ大和民族カ全世界ヲ征服スヘク
特別ノ使命ヲ以テ居ルト言フ學說カ廣汎ニ
傳播サレテ居ル。シカレバ獨逸ノ「ファシスト」ハ
亦夫レニ劣ラサル激烈サヲ以テ獨逸人種カ
當然全世界ヲ支配スヘキ特別ノ使命ヲ以ッ
テ居ルト說法シテ居ル彼等ノ此ノ理論ニ依
レハ日本及獨逸ノ人種ヲ除ク他ノ總テノ民
族ハ無智野蠻人テアルラシイ。日本人ハ其子
供ノ時カラ外國人ニ對スル憎惡ト輕蔑ノ精
神ヲ以テ教育サレテ所有ル出版物小中
大学内亦ハ軍隊内等テ他ノ民族ニ對スル最
ニ鉄面皮ナシテ野蠻ナ惡宣傳ヲ行ッテ
居ル曰ク大和民族ハ神聖ナモノテアツテ人類
六

第一番ニ「アジア」民族ヲ救済スヘキ貴イ使
命ヲ以ッテ居ルト

尚ホ最モ好戰的ナ將校團ノ指導者タル荒
木將軍テサヘ曰ク支那ハ既ニ二十年間ニ至
ル間無秩序的ニ支配サレテ居リ今日ニ至ル
迄テ中央政府モナク國家シル本質ヲ失ッテ
居ナイ。印度テハ三億余ノ人民カ英吉利ノ
抑圧ノ下ニ苦シテ居リ現在彼等ハ重大ナル
危機ニ直面シ居ルト言フ事ヲ言ツテ居ルカ
此ノ言葉ノ下ニ荒木ハ朝鮮人支那人其他
人種ノ数千カカ日本將軍等ノ爲メニ蹂躪
サレテ居ルト言フ事ニ付テ加フル必要カ有ッ
タノタ、荒木ハ自己ノ掠奪的政策ニ何等

S 13401 4364

S 13401 4363

0878

言及セスニ人種的憎悪ヲ說法シソシテ「日本帝國」即チ將軍等ヲ「アシヤ」被圧民衆ノ「救済者」トスヘキナリト提示シテ居ル
荒木ハ全「アシア」民衆ヲ支配スル大日本ハ
武力ニ依ツテ建設セヌト呼ビカケテ居ル
然シテ此ノ目的達成ノ爲メニハ先ツ滿洲
ト蒙古トヲ占領セネハナラヌ

滿洲ノ占領之レハ「第一歩」テアリ日本ハ
神意ニ依ツテ此ノ事實ヲ敢行シ尚ホ今
ニ「ウラシオストック」ト云フ地名ノアル事ヲ
吾人ハ記憶セネハナラヌト言フテ居ル
斯様ニ荒木ハ大日本帝國主義ノ何カ「第
二歩」テアラネハナラヌカラ全ク大ピラニ判然
ト示シテ居ルノテアル

基ヨリ彼等ノ隣接國ニ「ソヴィエイト」同盟國ノ
アル事ハ甚ダ不愉快ナルハ勿論ノ事々「ウラ
シオストック」之レハ彼等ノ目ノ上ノ「コブテアル」
ヲ以前「ソヴィエイト」國內戦争當時日本ハ
「ウラシオ」及「極東洲」ヲ掠奪セント試ミタルカ
如ク我カ「ソヴィエイト」カ隣接シアル事ハ彼
等ニ取ツテオ氣ニ召サレルモノテハアルマイ
「ソヴィエイト」同盟夫レ自身カ存在爲シ居ル
事ニ依ツテ彼等カ「極東」ニ於テ敢行スル勝手
放題ナ事ヲ防害シ支那滿洲朝鮮ノ勤労大
衆ヲ彼等トノ闘争ヘト鼓舞シツアリ
尚ホ日本國內勤労者ニ在リテモ彼等ノ理

S 13401 4366

S 13401 4365

0879

想ニ反スルカ如ク鼓舞シ「高遠ナ理想」皇道ニ依ル彼等ノ遠謀ヲ其根底カラ動搖セシムルノテアル

如何ニ日本帝國主義者共ト雖モ此ノ事「實」ノハ認メサルヲ得マイ尚ホ彼等ハ白ノ数的ニハ僅少ナルカ外國急進思想ノ捕虜トナリ「マルクス」主義ノ理論ヲ信奉シ屢々日本ノ體面ヲ遠謀ヤ自己ノ義務ヲ忘却シ居ル一派カ人類間ニアル眞ニ憂慮ニ堪ヘナイト言ヘルカ如ク實際彼等共ニ取ツテハ眞ニ憂慮ニ堪ヘナイ丈ケノ理由ハアル軍事的ニモ政治的並ニ經濟的各方面ニ堅實のニ保障セネバナラス又日本帝國ニ在リナカラ國內ハ反帝

ハ

主義ノ長成シツ、アリ之ニ相對シテ國內諸事件ハ大ナル急速度ヲ以テ進展シツ、アリ之レ實ニ日本帝國々々内々部カラノ爆發スル前兆テアル日本帝國主義ノ背後如何ニナルコトカ見テ居ヨウ

以上

S 13401 4368

S 13401 4367

0880

公 信 案	別添在重踏下使案作三九九号附原一表字及文書一揃宛添付ト
外 務 省	司法省刑事局長
	内務省警保局長
	本信送附先
	等御參考迄ニ茲ニ送附ス
	書別表ノ通送附シ來レルニ付右ノ揃ト何
	各一部

S 13401 4370

0882

發信用執務用			
主信	甲	乙	丙
附	乙	丙	丁
備考	13.4.2-4		
公文書案	名件	名 人 信 受	機密 機合第 四六一二號
外務省	邦文宣傳書送附件	内務省 唐澤警保局長 司法省 岩村刑事局長	昭和拾年十一月廿八日發送済 主 任 昭 和 拾 年 十 一 月 廿 七 日 日 附 附 屬
	今般在ソレ聯邦大田大使ヨリソレ側要人ノ報告演說等ヲ収録セル日本文宣傳文	東郷政重局長	淨書 正校(原稿) 昭和十年十一月二十省起草
		名件録記 芝原初太郎 佐藤信太郎	別紙 附屬物封

S 13401 4369

0881

27-47

歐亞局

機密第七八二號

昭和十年十二月二日

在浦潮斯德

總領事 渡邊 理

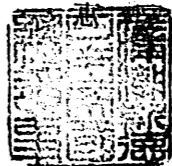
外務大臣 廣田 弘毅 殿

長順丸乗組船員ノ行動ニ關シ要注意ノ件

大連汽船株式會社所屬汽船長順丸ハ本年九月蘇聯邦傭船ト爲リ「オ
ホツク」へ食糧品輸送ノ爲メ九月二十八日當港入港更ニ十一月十八
日「オホツク」ヨリ歸浦シ「デオミット」灣岸ニ停泊荷揚ヲ了シ十
二月一日大連本社ニ向ケ歸航セルモノナル處十一月二十九日午後十
時頃全長順丸船員木通某ナル者突然當館中井雇員方ヲ訪レ「本船カ
蘇側傭船トナリ當地へ入港スルヤ船長白井武雄ハ各乗組船員ニ對シ
當地海員俱樂部へノ出入ヲ嚴禁シ又各自ノ上陸ヲ注意警戒シ居リタ

在浦潮日本總領事館

昭和拾年十二月拾七日接受



ルニ關ラス本船乗組員福本、瀬川（瀬賀？）砂邊、並木ノ四名ハ當
地在留ノ共產黨員佐々木、三浦等ト何時シカ接近シテ彼等ヲ本船ニ
誘入シ或ハ佐々木等ノ許ヲ往訪外泊セシ事實等アリ其ノ行動詳細ナ
ラサルモ當地共產黨員ト或種ノ連絡乃至默契アルヤト被認「ト語リ
辭去セリ
而シテ本件密告者木通ノ職掌身分乃至密告ノ動機等探究ノ邊ナク且
ツ直チニ本船ニ就キ取調セシメントシタルモ該船カ市街ヨリ掛離レ
タル外部ヨリ入禁止區域ニアリタル爲メ目的ヲ達セサル儘本船ハ翌
朝大連ニ向ケ歸航セシ爲メ當館トシテ何等突止メ得サリシ次第ナル
カ在當地太平洋勞働組合書記局沿海州委員會ニ隸屬スル市委員會内
宣傳部ニハ部長石田某部員佐々木外二三ノ邦人黨員潛在セル事實ア
リ嘗テ入港ノ本邦船舶ニ對シ「海坊子」等ノ「パンフレット」ヲ配
給セリトノ聞込モアリ常ニ入港船員等ニ對スル赤化宣傳ヲ企圖シ居
ルモ普通埠頭ノ繫留邦船ニハ遠慮シアルモ市街ヨリ距レタル地點へ
着埠スル「ソ」側傭船ニハ往々出入ヲ企ツル事アル模様ナルモ土地

在浦潮日本總領事館

S 13401

4372

0884

S 13401

4371

0883

柄該邦人共產黨員等ニ對スル動靜等調査困難ニシテ單ナル視察ニ止
 メ居ル外ナキ次第ナルカ以上ヨリ推思シ長順丸船員トノ往來云々
 一應首肯シ得ル處ナルニ就キ本件ニ關シテハ其筋ニ於テ特ニ密告者
 ノ身分關係等留意ノ上福本外三船員ノ行動御調査相成様致度右報告
 旁々申進ス

本備寫添付先 關東 警務部長 (本件ノ如キ機密事項ニ關スル
 當館ノ通信ハ外務省經由ノ事ニ御取計相成度爲
 念申添付)

在浦潮日本總領事館

S 13401 4373 0885

弘報部長

普通第二九六號

昭和十七年四月十五日

在中華民國

臨時代理大使

日

高

信

六

郎

外務大臣 東 郷 茂 德 殿

南京特別市新聞記者公會設立ノ件

中國側新聞記者團ノ結成ニ關シテハ豫テヨリ當館ニ於テ之ガ指導啓
 發ニ心掛ケ來レルガ先般南京及同周邊地區ニ於ケル國民政府直系各
 新聞通信社所屬記者ノ親睦、向上、連絡ト新聞事業ノ發展ニ資スル
 目的ヲ以テ當地中央電訊社總編輯許錫慶等有志相謀リ「南京特別市
 記者公會」ノ設立ヲ發起シ既ニ客月八日右發會式ヲ舉行シ不取敢同



別紙添付



情報
 局
 類 13.5.0.2-8

S 13401 4374 0886

會章程草案ヲ別添ノ通附議作成セリ
 右發會ニ際シテハ當館及軍報導部トモ側面的援助ヲ與ヘ同公會ハ同
 月十八日前記草案ニ基キ別記ノ通役員ヲ決定セリ
 現在同會ニ加入セル會員ハ當地記者總數ノ略々半數約一百名ナリ
 殘餘ノ一百名ハ自下尙靜觀中ナリ
 右何等御參考迄報告申進ス
 追テ別添章程草案ハ近ク春季會員大會ヲ開催シ更ニ審議スル趣ニ
 付申添フ
 本信寫送付先 南京、上海、漢口

右の如く静観中ナリ

在中華民國日本大使館

13401 4375 0887

記
 一 常務理事 (計九名)
 許錫慶 (前掲)
 孫夢花 (中央電訊探訪主任)
 張慎之 (前掲)
 李鐘和 (前掲)
 生率齋 (前掲)
 王羽中 (前掲)
 曹見微 (南京晚報社長)
 陳大丸 (上海國民新聞南京駐在員)
 丁 (上海中國報南京駐在員)

在中華民國日本大使館

13401 4376 0888

二 理事及主任 (計七名)

理事兼總務組主任 黃君甸 (中央電訊調查主任)

交際組 陳一峯 (中央電訊探訪員)

娛樂組 勝樹毅 (中報編輯員)

組織組 周雨人 (上海中華日報、香港南華日報駐在員)

事務組 章建之 (民國日報主筆)

會計組 倪蝶蓀 (中報編輯員)

保管組 呂健初 (時代晚報編輯員)

三 基金保管委員 (計五名)

許錫慶 (中央電訊總編輯)

張慎之 (中報總編輯)

在中華民國日本大使館

17. 1. 10,000 本村附 S 13401 4377 0889

李鐘和 (民國日報總編輯)
生率齋 (京報總編輯)
王羽中 (時代晚報總編輯)

在中華民國日本大使館

17. 1. 10,000 本村附 S 13401 4378 0890

0186

アジア歴史資料センター

REEL No. A-0373

南京特別市新聞記者公會章程草案（譯文）

第一章 總則

第一條 本會ハ南京特別市新聞記者公會ト稱ス

第二條 本會ハ感情ノ融和、智識ノ交換、新聞事業ノ發展促進、記者職務ノ保障ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二章 會員

第三條 凡ソ中華民國人ニシテ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ハ何レモ本會々員タルコトヲ得

- (一) 現在南京ノ各社記者タル者
- (二) 現在南京ノ各通信社記者タル者
- (三) 現在他都市ノ各新聞又ハ通信社派遣ノ南京駐在記者タル者

在中華民國日本大使館

17. 1. 10,000 13401 4379 0891

者但シ前各項ノ新聞、通信社ト稱スルモノハ既ニ法令ニ依リ政府機關ニ登記シ毎日新聞或ハ原稿ヲ發行スルモノ又記者ト稱スルハ編輯或ハ採訪ノ實際工作ニ従事スルモノニ限ル

第四條 本會ニ入會セントスルモノハ入會申込書ヲ提出シ本會々員二名以上ノ紹介ヲ經テ先ツ本會ニ登記シ監事會ノ審査ニ附シ理事會ヲ通過シ規定ノ金額ヲ納入スベシ

第五條 會員入會後轉業或ハ離京轉勤スル者ハ直ニ本人或ハ其所屬社ノ會員ヨリ報告ノ上監事會ノ審査ヲ經テ事實ナルトキハ會員タルノ資格ヲ喪失ス

第六條 會員ノ轉業或ハ離京轉勤ニ付テハ同人所屬社ノ會員之ヲ報

在中華民國日本大使館

17. 1. 10,000 13401 4380 0892

告スル義務ヲ有ス

第七條

會員ニシテ左記各項ノ一ニ該當スルモノハ會員ノ摘發ニ依リ監事會其事實ヲ審査シ理事會ノ議決ヲ經タル後會員タルノ資格ヲ取消スモノトス

(一) 本會ノ章程或ハ決議案ニ違反シ警告セルモ無効ナル者

(二) 本會ヲ破壞スル行爲アル者

(三) 公權褫奪者

(四) 不名譽罪ヲ犯シ法ノ宣告ヲ受ケタル者

第八條

會員資格取消處分ヲ受ケタル會員ハ取消ノ日ヨリ二年以内ニ再ビ入會スルコトヲ得ズ

第九條

凡ソ會員ノ資格ヲ有スルモノニシテ本會ニ加入セサル者ハ

在中華民國日本大使館

0893

4381

13401

17. 1. 10.00



0894

新聞記者名儀ヲ以テ當地ニ於テ職務ヲ執行スルコトヲ得ズ

第三章

權利義務

第十條

會員ノ權利ヲ規定スルコト左ノ如シ

(一) 會員ハ本會ノ保護ヲ享受スルノ權利ヲ有ス

(二) 會員ハ本會ガ其ノ職務上供與スル種々ノ便利ヲ享受スル

權利ヲ有ス

(三) 會員ハ大會中執レモ發言權、建議權、表決權ヲ有ス

(四) 會員ハ選舉權及被選舉權ヲ有ス

(五) 會員ハ本會出版ニ係ル刊行物ヲ閱讀スル權利ヲ有ス

(六) 會員ハ本會舉行ノ一切ノ娛樂ヲ享受スルノ權利ヲ有ス

在中華民國日本大使館

4382

13401

17. 1. 10.00



第十一條 會員ノ義務ヲ規定スルコト左ノ如シ

(一) 本會章程ノ遵守

(二) 本會決議ノ遵守

(三) 本會々務ノ保護及發展

(四) 隨時會費ノ納入

(五) 會議出席

第十二條 會員ニシテ若シ其ノ當然ノ義務ヲ履行セザルトキハ理事

會ヲ經テ警告ヲ發シ或ハ其ノ享クル權利ヲ停止ス、右ハ

監事會ヲ經テ之ヲ執行ス

第四章 職員

第十三條 本會ニ理事十七名、監事十一名、候補理事五名、候補監

在中華民國日本大使館

17. 1. 10.000 S 13401 4383 0895

事三名ヲ置ク會員大會ニ於テ之ヲ選舉ス

第十四條 本會ニ常務理事九名ヲ置ク理事中ヨリ之ヲ互選ス又常務

監事五名ヲ置キ監事中ヨリ之ヲ互選ス

第十五條 本會ニ下記各組ヲ設ク(一)總務組(二)組織組(三)會計組(四)事業

組(五)交際組(六)娛樂組(七)保管組各組ニ主任一名ヲ置キ理事

之ヲ互選ス、幹事若干名ハ主任ニ於テ會員中ヨリ選抜シ

理事會通過ノ後之ヲ委囑ス

第十六條 理事、監事、各組主任、及幹事ハ孰レモ名譽職トス

第十七條 理事、監事、各組主任ノ任期ハ孰レモ一年トシ重任スル

コトヲ得但シ三回ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 理事、監事ニ缺員ヲ生ジタルトキハ候補理事、監事中ヨ

在中華民國日本大使館

17. 1. 10.000 S 13401 4384 0896

第十九條
リ順次補充ス、其ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
常務理事ハ監事、各組主任ニ缺員ヲ生ジタルトキハ理、
監事會ヨリ各別ニ之ヲ補選ス其ノ任期ハ前任者ノ殘任期
間トス

第二十條
本會ハ事實上ノ必要ニ依リ專問委員會ヲ設ク其ノ委員ノ
人選ハ理事會ニ於テ之ヲ委囑スルカ或ハ常務理事ノ議決
ヲ經テ之ヲ委囑ス

第二十一條
本會ノ理監事會、各專問委員會及各組事務細則ハ別ニ之
ヲ定ム
第五章 職 權

第二十二條
理事ハ本章程ノ規定及會員大會ノ決議ニ依リ職權ヲ行使

在中華民國日本大使館

第二十三條
ス常務理事ハ理事會ノ決議ニ基キ職權ヲ行使ス
監事ノ職權左ノ如シ
(一)理事會ノ監察、會員大會ノ決議執行
(二)會員ノ資格審査
(三)理事會處理ノ會務審査
(四)理事會ノ財政出入調査
(五)理事會提出ノ會員處分案件ノ決定
常務監事ハ監事會ノ決議ニ基キ職權ヲ行使ス
各組ノ權限ヲ規定スルコト左ノ如シ
第二十四條
(一)總務組、本會收發文書、開會記錄及庶務事項
(二)組織組、本會々員入會脫會ノ登記手續事項

在中華民國日本大使館

17. 1. 10.00 S 13401 4386 0898

17. 1. 10.00 S 13401 4385 0897

(三)會計組、本會ノ收支決算事項
 (四)事業組、本會事業發展事項
 (五)交際組、本會ノ對外交際事項
 (六)娛樂組、本會ノ娛樂交遊事項
 (七)保管組、本會ノ經費及公有物保管事項

第二十五條 專問委員會ノ職權ハ理事會或ハ常務理事會ノ決定セル所ニ依ル

第六章 會議

第二十六條 會議ノ種類左ノ如シ
 (一)會員大會、毎年春秋二期ニ各一回舉行シ理事會之ヲ招集ス

在中華民國日本大使館

17. 1. 10,000 S 13401 4387 0899

(二)理事會、毎月少ク共一回開催シ常務理事會之ヲ招集ス
 (三)監事會、二ヶ月毎ニ一回開催シ常務監事會之ヲ招集ス
 (四)常務理事會、毎週少ク共一回之ヲ開ク
 (五)常務監事會、毎月少ク共一回開催ス
 (六)理、監事會、必要時之ヲ開催ス

第二十七條 本會職員ノ選舉ハ春季會員大會ノ際之ヲ行フ

第二十八條 理、監事會必要ト認め或ハ全理、監事會員三分ノ二ノ提議若ハ會員五分ノ一ノ請求アルトキ臨時會員大會ヲ招集スルコトヲ得

第二十九條 會員大會ハ會員過半数以上ノ出席ヲ得テ正式會議トスヘシ若シ過半数ニ満たサルモ全會員四分ノ一出席セルトキ

在中華民國日本大使館

17. 1. 10,000 S 13401 4388 0900

ハ開會スルコトヲ得但シ一切ノ議決案ハ單ニ假決議トナシ次期大會ニ提出シ再議スルモノトス

第三十條 會員大會法定人員ニ滿タサルトキハ理事監事ヲ改選スルコトヲ得ス

第三十一條 會員大會開催ノ時ハ主席團ヲ組織シ主席ハ順次就任ス主席團ノ組成方法次ノ如シ

(一) 常務理事會ヨリ二名推薦
 (二) 常務監事會ヨリ一名推薦
 (三) 會員大會ヨリ二名推薦

第三十二條 理監事會開催ノ時ハ過半數ノ出席者アルヲ要シ常務理監事ヨリ順次主席ニ就任ス

在中華民國日本大使館

17. 1. 10,000 13401 4389 0901

第三十三條 候補理、監事ハ理、監事會議ニ列席スルコトヲ得

第七章 經費

第三十四條 本會々員ハ入會ノ際入會金二元ヲ納入シ毎年春秋二期ニ會費二元ヲ分納スヘシ

第三十五條 會員ニシテ資格ヲ取消サレタルトキ既納會費ハ一切返還セズ

第三十六條 本會ノ經費ハ主管機關、新聞社及通信社ヨリノ補助及會員ノ會費ヲ以テ之ニ充ツ

第三十七條 本會ノ會計年度ハ一月一日ヨリ始リ十二月三十一日ヲ以テ終ル

第三十八條 本會ノ豫算案ハ常務理事會ニ於テ編成シ理事會ニ附議通

在中華民國日本大使館

17. 1. 10,000 13401 4390 0902

過シタル後監事會ノ審査ヲ得ルモノトス決算ハ常務理事會ニ於テ編成シ理事會ニ提出通過後再ビ監事會ニ送附シ審査後之ヲ公布ス

第三十九條 會員大會ノ通過ヲ經ルニ非ザレバ本會名議ヲ以テ特別寄附募集ヲナスヘカラス

第四十條 本會ノ支拂ハ常務理事二名立會ノ上會計、保管兩組ノ主任署名捺印シ始メテ有效トス

第八章 附 則

第四十一條 本會ノ章程ハ會員大會通過後效力ヲ發生ス

第四十二條 本會章程ノ修改ハ會員大會ノ決議ヲ經ルヲ要ス、右修改案ノ未ダ合法的ニ通過セザル以前ニ於テハ本章程ハ引續

在中華民國日本大使館

17. 1. 10,000 本村 S 13401 4391 0903

キ效力ヲ有ス

第四十三條 本章程ハ主管機關ニ申請シ認可アリタル後之ヲ施行ス

在中華民國日本大使館

17. 1. 10,000 本村 S 13401 4392 0904